

農産FAX情報 第9号

令和8年9月15日

ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) は種作業

○は種時期に合わせては種量を決定しましょう。詳細は9月1日付け農産FAX情報第8号の表のとおりです。

(2) 雑草対策

○イネ科雑草は越冬後に防除することが難しく、秋のうちに除草剤散布を行います。生育状況により使用液量等が異なるため注意しましょう。

表1 除草剤使用例

適用雑草	薬剤名	使用時期	10a当たり使用液量(mL)	使用回数
1年生 雑草	ガルシア フロアブル	は種後出芽前 (雑草発生前)	150~250	1回
		出芽直前~小麦3葉期 (雑草発生前~発生始期)	100~200	
		小麦4~6葉期(越冬前)	200~250	
	ガレーズ乳剤	は種後~出芽前 (雑草発生前)	200	
		小麦出芽後~出芽揃期 (雑草発生前)	150~250	
		小麦1~3葉期 (雑草発生前~発生始期)	100~150	
	キタシーブ フロアブル	は種後~出芽揃期 (雑草発生前~発生始期)	80~100 (散布水量50~100L)	
		小麦1~3葉期 (雑草発生前~発生始期)	80~100 (散布水量100L)	
		は種後~出芽前 (雑草発生前)	80~100 (散布水量25~50L)	

2 てんさい

(1) 病害虫の防除（褐斑病、シロオビノメイガ、シロイチモジヨトウ）

○発生が見られた場合は、状況に応じて防除を実施してください。防除を行う場合には薬剤の使用時期等に注意し、適正に防除しましょう。

表2 シロオビノメイガ、ヨトウガに登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
カスケード乳剤	ベンゾイル尿素	4,000	4	7日前まで	15
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド	5,000~6,000	2	前日まで	28
ディアナSC※	スピノシン	5,000~7,500	2	前日まで	5

※5,000倍で幼虫、成虫に効果的。

3 豆 類

(1) 小豆の収穫作業

○収穫は「熟莢率」を目安に判断しましょう(表3)。過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表3 小豆の収穫適期の目安 (H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫	熟莢率100%(子実水分16~18%) 完熟期(熟莢率100%)から2週間以内	熟莢率80%、子実水分25%程度
ダイレクト収穫		①汎用コンバイン(4条)~熟莢率90%、 子実水分25%程度 ②豆用コンバイン(2条)~熟莢率80%、 子実水分25%程度

(2) 大豆の収穫作業

①収穫

○刈り取り適期は子実水分が20%以下(最適は16%以下) 茎水分55%以下(茎がポキッと折れる状態)となってから作業を行いましょう。

②汚粒対策

○わい化病株や雑草(特にイヌホオズキ)は事前に抜き取ります。倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意し土砂の混入を防ぎましょう。

○茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。

○朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。

収穫が近い作物への**ドリフトに注意!**

トラクタや作業機には**早めのライト点灯!**

作業中の収穫機点検は**必ずエンジンを止めて!**